建築人

2024
12

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.726

建築人

2024.12 No.726

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「小箱家」2023年

第16回 建築人賞 受賞作品
設計 : T-Square Design Associates
施工 : ICHI-市川工務店
撮影 : 楠瀬友将

芦屋市内に建つ小さな木造２階建て住宅である。
「小さい」ことを逆手にとったシンプルな構造計画によるワンフロアワンルームを目指した。
１階は水廻りを除いたスペースを布だけで仕切ることで間取りに可変性を持たせ、２階はワンルームとなっている。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品紹介
「JCRファーマ神戸サイエンスパークセンター」
建築主 : JCRファーマ
設計 : KAJIMADESIGN
施工 : 鹿島建設
「立命館大学大阪いばらきキャンパスH棟」
設計 : 竹中工務店
施工 : 竹中工務店

7 動静レポート

8 中務常務送別会

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築
「スパイラル（SPIRAL）」1986年
透明感と奥性と孤独を愉しむ空間と / 松隈 洋

建築人 No.726 2024年12月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部
部門長 : 田鍋 稔
委員長 : 松下典央（編集人代表）
編集人 : 武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平 昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子 三谷勝章 村上栄司 山本恭史
事務局 : 隅原正太 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和6年12月1日発行
発行人 : 会長／岡本森廣
発行所 : 公益社団法人大阪府建築士会
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F
tel. 06-6947-1961

大阪浪漫

（1987年・大阪球場）

写真・文 喜多 章

1987年頃、南海ホークス（現・福岡ソフトバンクホークス）の本拠地だった大阪球場（なんば球場）を撮影・・スコアーボードには南海ホークス門田・香川選手等の名前もあり今振り返ると懐かしい限りだ。どの球場の観覧席も今や多くの観客で溢れかえっているが、当時は自宅でのテレビ観戦の如くビールつまみを食べ横たわりながら観戦している人もおり、ゆったりした雰囲気が漂っていた事を思い出す・・球団経営的には結構大変だったろうが・・

Gallery

JCRファーマ神戸サイエンスパークセンター

建築主：JCRファーマ
設　計：KAJIMADESIGN
施　工：鹿島建設

新型コロナワクチンの原薬製造と、パンデミック時に厚労省からの依頼に対応できる原薬製造の、2ラインプラントを最短期間で稼働させる建設プロジェクト。グローバルGMP・バイオハザード封じ込め基準に適合する明快なゾーニング・動線計画、信頼性の高い室圧・気流計画をエンジニアリング部門と共に計画した。製造棟は早期稼働を可能にする平屋建て・同一平面構成の製造空間とレイアウト変更や機器更新のフレキシブル性を高める建築・建築設備システム。事務棟は西側に広がる住宅地に対し、環境ならびに景観に配慮した建物構成・配置計画。西面の外気負荷を低減し室内環境を向上させるバルコニーと日射遮蔽ルーバーや、各管理部門をつなぐ3層吹抜のリフレッシュ空間：コミュニケーションボイドを構築し、従業員の快適性向上に寄与した。　（KAJIMA DESIGN　近持真寛）

所 在 地：兵庫県神戸市
用　　途：工場（医薬品）
竣　　工：2022.11
構造規模：鉄骨造
地下1階
地上3階
建築面積：8,144㎡
延床面積：14,586㎡

立命館大学大阪いばらきキャンパスH棟

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店

※

※※

大阪いばらきキャンパスへの映像学部・研究科、情報理工学部・研究科移転に伴う新棟の増築計画。2学部・研究科の学舎であることを超えて、他学部生や学外との共創の起点として、更なるキャンパスの進化を目指した。キャンパス内に集まるあらゆる人々の「やってみたい」を刺激し、挑戦を後押しする実証実験の場「TRY FIELD」をコンセプトとした。まちの賑わいを引き込む低層階のTRY SQUARE（他学部生や学外との共創を促す半屋外広場）と高層階のInnovation Lounge（学生同士の親密な交流を促す段状小空間）という2つの吹抜け空間を中心に、学生のアクティビティが重なり刺激し合う学習空間を実現した。

（永井務・堀良平・金澤潤・田中はつみ）

所在地：大阪府茨木市
用途：大学
竣工：2024.02
構造規模：S造、柱SRC造 地上9階
敷地面積：98,332㎡
建築面積：7,712㎡
延床面積：47,096㎡
写真：母倉知樹
ナカサアンドパートナーズ※
立命館大学※※

動静レポート

会長動静

10/26 ～ 28　全国大会鹿児島大会
10/28 ～ 11/1　日中韓３ヵ国国際会議
11/4　奈良県建築士会・中尾会長面談
11/5　中務常務兼事務局長面談
　大阪大会実行委員会
11/6　AAF・平沼孝啓氏面談
11/7 ～ 8　香港工業総会・アラン・ソー氏面談
11/8　柏原市長面談
11/11　台湾新北市建築師公會面談
11/12　大阪府収用委員会、八尾市長面談
　日本建築材料協会・松本会長面談
11/14　大阪府中小建設業振興大会
11/15　藤井寺市長面談
　正副会長会議、運営会議
11/16　大阪府建築士事務所協会・山本隆明副会長の大臣表彰受賞祝賀会
11/18　大阪府収用委員会
　出江寛氏を偲ぶ会
11/20　理事会、中務常務兼事務局長面談
11/22　羽曳野市長面談、池田市長面談
　在阪４団体会長・支部長会議
11/23　一部屋耐震断熱シンポジウム

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 11/8　柏原市・冨宅正浩市長と面談

左より/牧田専務理事、冨宅市長、岡本会長、石貫副会長、尾鍋地域代表幹事

◎ 11/12　八尾市・大松桂右市長と面談

前田理事、牧田専務理事、大松市長、岡本会長、横田副会長

◎ 11/15　藤井寺市・岡田一樹市長と面談

篠原青年委員、上田副会長、岡田市長、岡本会長、牧田専務理事

◎ 11/22　羽曳野市・山入端創市長と面談

牧田専務理事、岡本会長、山入端市長、松村地域委員

◎ 11/22　池田市・手向健二副市長と面談

上田副会長、岡本会長、手向副市長、牧田専務理事、髙原青年委員

11 月度　理事会報告

日時　11 月 20 日（水）16：00 ～ 17：30
場所　本会・東会議室
出席　理事 41/46 名　監事 2/2 名
(1) 入退会の承認

（人）	11 月	入会	退会
正会員	2,174	1	5
準会員	27	0	0
特準会員	20	0	1
賛助会員	143	0	0
計	2,364	1	6

(2) 会計報告

（円）	11 月計	累計
収入	7,936,229	96,196,523
支出	9,421,071	75,770,693
差引	△ 1,484,842	20,425,830

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 隣接ブロックとの応急危険度判定活動に関する協定
大規模災害の発生時、東海・北陸および中国・四国ブロックと協力し迅速に判定活動を行う協定を、近畿建築士会協議会に諮り締結することを承認しました。
(4) 省エネ法改正に伴うサポート体制
サポート員 11 名と、本会及び大阪府建築士事務所協会並びに近畿建築確認検査協会の三団体における体制構築費の配分等について承認しました。
(5) 府内の企業訪問
監理技術者講習の勧奨や若手社員の派遣、災害時の被災地派遣要請を目的として、府内の建設業者への訪問活動を行うことを承認しました。
(6) 大阪大会の準備進捗
①来年 1 月の連合会理事会への提出にむけて、大阪大会の事業計画および予算案を承認しました。
②大阪・関西万博に呼応して「川から見る大阪」「中之島名建築ガイド」「船場の近代建築ツアー」「日本遺産バスツアー」の企画推進を承認しました。
③大阪府の後援名義の承認を目標に、本会が万博開催や大阪府の施策に関連した具体的な取り組みについての情報提供を呼び掛けました。

大阪急性期総合医療センターの災害訓練に参加

1 月 9 日に大阪急性期総合医療センターにおいて、南海トラフ地震が発生したという想定で、的確かつ迅速な判断のための被害状況報告システム（iCAS）を使用した写真付き建物被害情報の判定に対応した災害医療訓練を実施し、本会からは応急危険度判定士 3 人が参加しました。
本会は医療センターと震度 6 弱以上の地震が発生したとき、応急危険度判定を行う協定を平成 29 年に締結しています。

病院内体育施設における災害医療訓練

中務常務送別会　大阪府建築士会約50年を支えた漢

11月30日をもって、大阪府建築士会の70年を越える歴史の中で、約50年近くもの歳月を支えて頂いた常務兼事務局長の中務治三様が退任され、去る11月20日にホテルプリムローズ大阪にて、多くの方々が集まり盛大に送別会を開催させて頂きました。
約50年という長い年月、大阪府建築士会の発展と運営に多大な貢献と功績を残され、心からの感謝が止むことはありません。これからの新しい章が、健康と幸せに満ちたものでありますことを心からお祈りしております。

退職のごあいさつ

謹啓
時下ますますご清祥の段　お慶び申し上げます
平素は格別のご高配を賜り　厚くお礼申し上げます
このたび　私議　公益社団法人大阪府建築士会常務兼事務局長を　本会就業規則により 11 月 30 日付けをもって退職いたします
1975 年の在籍以来約 50 年間の長きに亘る格別のご指導ご教示に心より厚くお礼申し上げますとともに今後とも本会並びに事務局への一層のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます
略儀ながら　書中をもって　お礼旁ご挨拶申し上げます
謹白

2024 年 11 月
公益社団法人大阪府建築士会
常務兼事務局長　中務　治三

Topics

第1回「はじめよう、文化財の活用」—昭和初期の住宅×伝統文化・能— 能の入り口に入ろう

日程：令和6年10月13日（日）
会場：横山家住宅
参加者：23名

髙栁春香（ヘリテージマネージャー協議会運営委員）

文化庁の令和6年度文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）をうけて「はじめよう、文化財の活用（文活）」全5回の第1回目の講座に運営責任者として参加しました。この講座は、その地域特有の特別感を演出する建物で、伝統芸能や伝統文化などの特別な体験をする「ユニークベニュー」を学ぶものです。

会場は、大阪市阿倍野区の横山家住宅で、大阪府建築士会主催・大阪府教育庁共催・大阪府登録文化財所有者の会とヘリテージマネージャー協議会が協力してこの事業を行いました。昭和初期の住宅で能について学ぶという特別な場所での特別な体験を通して、地域の歴史・文化、魅力を知っていただけたと思います。まずはまち歩きからスタートしました。国登録有形文化財の寺西家住宅前に集合し、寺西様から周辺一帯の阪南土地区画整理事業について、寺西家阿倍野長屋が長屋として全国で初めて国登録有形文化財となるに至った経緯などを伺い、この地域に多くの長屋が残り活用されていることの一助となっていることを学びました。元質屋の町屋や様々に活用される長屋を巡り、村野藤吾設計の南大阪教会では、ご厚意により内部も見学し盛りだくさんのまち歩きとなりました。

横山家住宅では、横山様から昭和9年に和洋折衷様式で建てられたこの住宅を大切に残していきたいという思いや建築当時の歴史的背景、戦火を奇跡的に免れた話など貴重なお話を聞くことができました。能のワークショップでは能楽師シテ方観世流・林本先生、大倉流小鼓方・上田先生をお迎えし和室にて行いました。田楽能が田植えの際に五穀豊穣を祈る神事から発展したことや能の鑑賞における心構えを学びました。更に、お謡いの発声のコツ、能楽独自のリズムの取り方、エア小鼓の打ち方のレクチャーを受け、参加者全員で行ったお謡いと小鼓の演奏は、一体感と感動を生み皆で特別な時間を共有しました。その後洋間の応接室に移動し、能面が持つそれぞれの意味について説明を受け、参加者が能面をつけ、顔の角度や視界の狭さなど制限された中で繰り広げられる伝統文化の一端を体感しました。何よりも参加いただいた皆様の熱心な姿勢が支えとなった講座でした。また、能に合わせた室礼で迎え入れてくださった所有者様はじめ、演者様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

建築相談室から（90） 現地相談ならでは

橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

建築相談には電話での相談の他に、面接での相談と現地相談があります。面接相談と現地相談は有償ですが、2023年度は面接相談15件、現地相談23件実施しています。

今回は現地相談からご紹介します。

隣の解体工事の影響を見てほしい

隣地解体の際、所有している建物の塀の基礎部分、敷地内の路地の一部が無断で解体された。その塀が倒れないように補修してもらう方法と路地の補修方法のアドバイスが欲しい。また、駐車場前の溝が大雨の際あふれる、配管を土間コンクリート打設したが埋めて問題が無かったのか、等も見てほしい、という相談。

電話ではさすがにアドバイスに限界があるため現地相談をすすめ、現地相談となった。解体された塀の基礎と言われている部分は、路地と一体のコンクリートで基礎ではなかったことがわかり、敷地境界の内側で直してもらうように交渉する方がいいとアドバイスをしています。また、溝は正常に流れており使用に問題が無いこと、土間下の配管は使っていない電気配管だったことがわかり問題ないことを伝えたようです。

一般の人からの電話相談は、思い込みや伝え方に齟齬が生じて、実際に専門家が見に行ったときに問題が無かったり、勘違いだったりすることがしばしばあります。

築100年超の長屋の耐震診断

大正11年築の4軒長屋を相続した相談者から、3軒は居住者がいて、端住戸は空き家になっている。空き家は屋根が崩れ室内も酷い状態である。行政の耐震診断補助の相談に行ったが1軒立ち入られず調査ができないようであれば補助金が受けられないと言われてどうしたら良いかの相談。現地相談では、崩壊している端住戸で柱の倒れが見られないこと、階段や2階の床が腐朽して立ち入れないことを確認しています。この建物は耐震性能を有していないと判断した上で、立ち退きも含めて早急な対応が必要であることを相談者に伝えています。

耐震診断の補助金はもらえるか、という相談でしたが、実際にはそれどころではない状態で一歩間違えれば倒壊の危険もありました。現地相談への誘導が機能した案件といえます。

現地相談への見極め

電話相談で適切なアドバイスに至ることもありますが、ほとんどの相談は現地を見ないとわからないことが多いです。一方で現地相談は有償（半日35,000円）であることから、電話相談では安易に勧められません。

大きな問題を含んでそうな相談はもちろんのこと、相談者が気になっている事項を電話相談でイメージの共有ができないなどの「何かが引っかかる」相談も現地を見ることで適切なアドバイスにつながることがあります。現地相談してよかったなという相談がたくさんあります。

建築士会からのお知らせ

「建築士サポートセンター」の開設
建築基準法・建築物省エネ法改正に係る各種申請手続きをサポートします

建築基準法・建築物省エネ法の改正法が令和4年6月に公布、関係する政省令等が整った規定から段階的に施行され、令和7年4月には全面施行を迎えます。
①建築確認・検査手続きに係る審査特例（4号特例）制度の見直し
②小規模木造建築物に係る壁量計算等の構造規定の見直し
③省エネ基準適合義務化
国土交通省では、改正法の円滑な施行に向けて、説明会、講習会等による周知とともに、申請者（建築士等）を個別にサポートできる体制を全都道府県において構築します。本会でも令和7年1月より「建築士サポートセンター」を開設いたしますので、お気軽にご相談ください。

既存建築物耐震診断等の評価

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
（業務内容）
耐震診断報告書や耐震補強計画案の審査、評価等
（対象建築物）
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
（会員特典）
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料が10%割引となります。

【WEB版】確認申請のプロ養成講座 初級編
11/1～1/31　CPD3単位

なかなか教えてもらえなかった確認申請。その基本を知るだけで、あなたは確認申請のプロと呼ばれる。訂正項目が少なく、審査がしやすい申請図面が作成できれば建築着工も安心！常に変化している確認申請の世界。住宅の省エネ適合義務化や4号特例の縮小、そして申請のデジタル化による電子申請などの最新事情がわかる。
※2024年2月28日に実施した同名の講習会と5～10月に配信した同名講座と同内容です。
視聴期間　11/1（金）10：00～1/31（金）終日
配信方法　WEB講習
受講料　建築士会会員6,000円
後援団体会員6,500円
一般7,000円
主催　（一社）近畿建築確認検査協会
共催　（公社）大阪府建築士会

令和6年度 建築士定期講習
12/13、1/22、2/4、3/27　CPD6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和3年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
▼対面講義
日程・会場・定員
※2/4（火）　大阪YMCA会館　200名
▼DVD講義
日程・会場・定員
※12/13（金）大阪府建築健保会館　90名
1/22（水）　大阪府建築健保会館　90名
3/27（木）　大阪府建築健保会館　90名
※の日程　大阪府建築士会が運営
※以外の日程　大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間　9：15～17：00（各講習日共）
受講料　12,980円（消費税含。事前入金）
申込　下記URLよりお申込みください。
インターネット申込みができない方は、大阪府建築士会HPの定期講習の案内をご確認ください。
https：//www.jaeic.or.jp/gyomu/off_teiki/index.html

令和6年度監理技術者講習
1/15、3/7　CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。
日時　1/15（水）、3/7（金）　8：55～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　30名（申込先着順）
受講料　WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込　日本建築士会連合会HPより
http：//www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

既存住宅状況調査技術者講習
更新講習3/12　CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。令和3年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限のため更新講習をご受講ください。
日時　3/12（水）
13：30～17：00（DVD講習）
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　30名（申込先着順）
受講料　WEB申込17,000円
郵送申込17,600円
申込　日本建築士会連合会HPより。上記以外にオンライン講習も開催。
https：//www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyochosa.html

祇園甲部歌舞練場　見学会
―文化を継承するための耐震改修―

12/11　CPD2単位

伝統伎芸「都をどり」の専用劇場兼、祇園甲部の芸舞妓のための稽古場である祇園甲部歌舞練場の耐震改修のプロジェクトです。前例の無い大規模木造建築の鉄骨による耐震補強を行い、且つ、建築基準法の適用除外も実施しています。設計者から計画内容および施工における留意点を直接説明していただく良い機会ですので是非ご参加ください。

日時　12/11（水）　13：20〜15：45
　　　集合受付13：00（時間厳守）
会場　祇園甲部歌舞練場　正面入口前
定員　60名（申込先着順）
受講料　建築士会会員2,500円
　　　　後援団体会員3,000円
　　　　一般4,500円

その他のお知らせ

にほんの　あらたな　てしごと
橋口新一郎展
―古代の敷葉、現代の茶室―

12/17〜2/16

大阪府生まれの建築家・橋口新一郎によるアートインスタレーション作品の展示です。日本の伝統的な技術や感性に着目し、次々と茶室を発表。国内外で高い評価を得ています。代表作「織物の茶室｜霞庵」と、狭山池の飛鳥時代〜奈良時代の堤に使われている古代の土木技術「敷葉工法」から着想を得た作品を展示します。

日程　12/17（火）〜2/16（日）
会場　大阪府立狭山池博物館
https：//sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/

木造軸組工法 中大規模建築物の構造設計演習

1/16、1/17

本講習は「木造軸組工法 中大規模木造建築物の許容応力設計度」の講習会受講者を対象に、構造計算演習を実施し、今後各地域における中核的な構造設計者として、木造に関する相談を受けたり、地域の講習会で講師を務めることができるような人材を育成することを目的としています。

日時　1/16（木）、1/17（金）の全2日間
　　　10：00〜17：00
会場　AP大阪茶屋町8階I+Jルーム
　　　（大阪市北区茶屋町1-27 ABC-MART梅田ビル8F）
定員　40名（申込先着順）
参加費　無料（但し計算演習資料代1,340円）
申込　一般社団法人木を活かす建築推進協議会
https：//www.kiwoikasu.or.jp/news/404.html

「鉄筋コンクリート構造計算規準」改定講習会

1/27

日本建築学会刊行の「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準・同解説」と「鉄筋コンクリート造建物の等価線形化法に基づく耐震性能評価型設計指針・同解説」の改定内容を解説します。

日時　1/27（月）　10：00〜17：00
会場　大阪科学技術センター　大ホール
定員　250名
参加費　日本建築学会会員14,000円
　　　　後援団体会員16,000円
　　　　上記以外19,000円
申込　一般社団法人日本建築学会本部事務局
https：//www.aij.or.jp/jpn/symposium/2024/2024rc_standard.pdf

開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会

2/6

本研修会は、建築士事務所の管理・運営を適切に進める上で把握しておくべき重要事項を網羅した内容となっており、5年ごとの事務所登録の更新の機会に合わせて受講する（任意）ことで、資質の維持向上を図り、業務委託者の期待に応えるべく業務の適正化や建築物の質の向上等を目指すことを目的としています。

日時　2/6（木）　10：00〜16：30
会場　大阪建築健保会館6階ホール
定員　90名
受講対象　建築士事務所の開設者及び管理建築士
受講料　会員8,800円
　　　　後援団体会員13,200円
　　　　一般15,400円
申込　一般社団法人大阪府建築士事務所協会
https://forms.gle/U5wyLMqU4t3A2u5p6

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事　1頁カラー、写真4点程度
●掲載費用　100,000円
　※1 初回割引80,000円（設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合）
　※2 若手初回割引50,000円（40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方）
●詳細・申込　事務局担当：母倉
　e-mail：info@aba-osakafu.or.jp
　TEL：06-6947-1961

建築相談委員会の紹介

建築相談委員会 担当理事　川北武志

建築相談委員会は、主に一般市民の方々の住まいに関する建築相談の要望に応えるべく、社会貢献活動を行なっています。また、月1回委員会を開き、活動状況の報告や協議をすると共に、電話・面接・現地相談で受けた相談内容に対してアドバイスした内容などを話し合い、相談委員間での相談対応の向上に努めています。また、会員向け勉強会や弁護士会との共催セミナーも行なっています。
建築相談活動は、社会貢献であると共に、一般の方が建築のどんな事に悩みや困難を覚えているのかが分かる事で、建築士としての自覚や自身のスキルアップに繋がる事必須です。地味な活動であるので、相談委員が不足がちです。少しでも建築相談に興味のある方は、近くの相談委員や事務局に、是非、お気軽にお声がけ下さい。共に活動出来ることを、楽しみにしております。

◆ 電話相談

毎週、月～金、13：00～16：00電話により一般の方からの住まいに関するあらゆる問題を解決すべくお答えすると共に、他の委員会（建築インスペクション・マンション管理支援・住宅を設計する仲間達・ヘリテージなど）の事業に繋ぐ貴重な役割も担っています。

電話相談デスクの様子

◆ 面接相談

予約していただいた月～金の16：00～17：00に本会にて、写真や図面などの資料を持参していただき、有料にて予約時にお聞きした相談内容に対応出来る建築士によって建築相談を行っております。

◆ 現地相談

予約していただいた方の現地に建築士2名で訪問し、実際にお困りの部分を拝見しながら建築相談を行なっています。

◆ 各所での建築相談

大阪市立住まい情報センターなど大阪周辺の各所にて、土日に、相談委員が訪れ建築相談会を行なっています。

◆ 建築相談委員会

月に一度、Webと本会会議室を結び、委員会を開いています。

建築相談委員会　Webと本会会議室にて

◆ 弁護士会との共催セミナー

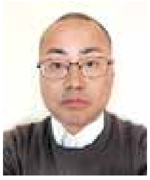
年に一度、弁護士会との共催セミナーを行なっています。建築紛争セミナーとし、今年度で9回目を迎えることが出来ました。今年度は、「危険な擁壁―そして沈下」と題し、実際の事例を題材に調停事例を紹介し、建物の不具合現象の原因調査、関連する法規制、法的責任追求の相手方への請求内容、事案解決にあたっての創意工夫といった一連のプロセスについて、弁護士、建築士の立場から解説を加え、擁壁、不同沈下に関する必要な知識を習得するプログラムでした。

弁護士会との共催セミナーの様子

題材になった事例は、雨漏りや異臭などの不具合が発生し、調査の結果、仕様書と異なる材料が使用されていたことが判明し弁護士に相談することになりました。相談を受けた弁護士は知り合いの建築士に協力を依頼し、建築士が現場を調べていくと、当初の不具合とは別に建物が不同沈下していることが判明し、他の問題よりも大きな問題であると思われたため、そこにフォーカスしたという事案です。問題が発生した当初から、建築士が建物調査をすることで、依頼者が瑕疵現象と認識すらしていなかった重大な瑕疵が発見され、その上で、建築士と弁護士の密な連携により、依頼者にとって良い解決が得られる事になりました。
来年度も弁護士会との共催セミナー開催にご期待ください。

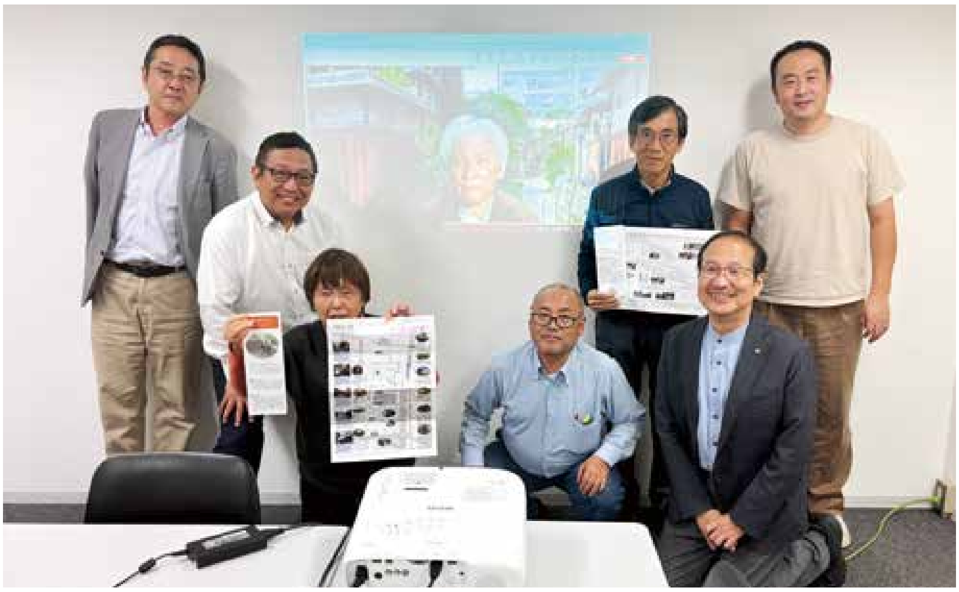
News of Note

まちづくり分科会の紹介



地域まちづくり委員会まちづくり分科会 担当理事　北野哲也

本分科会は、1997年から活動をはじめ、まちづくりに関心のある様々な職種（設計、行政、大学教員など）の建築士が集まり、市民や行政と連携しながら建築士の職能を活かしたまちづくりに取り組んでいます。



●近年の活動事例

《団地をテーマにした講演会とまち歩き》

戦後日本の住生活をリードした団地に関して専門家による講演会を行い、続いて、我国の代表的な大規模団地である千里ニュータウンのまち歩きを行いました。多くの市民が参加され、とてもいい発見があった、リアルな体験ができたと感想をいただきました。

団地内のまち歩きの様子

《古地図を使ったまち歩き》

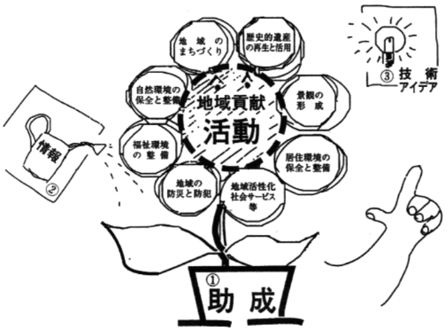
江戸・明治時代の古地図がみれる新しいスマフォアプリの活用により、現在と過去のまちを比較しつつ、タイムスリップを楽しみながら学べるまち歩きを実施しました。

町家と旧道を説明中の様子

●大阪地域貢献活動助成制度による支援

以上の事例紹介をしました活動とともに、分科会では、本助成制度の運営を担っています。今までの28年間、毎年度行う公募・審査により、延べ64団体の活動に対し事業費助成などを実施しています。（図参照）

本助成制度では、建築士と地域住民が連携して進める地域貢献活動を対象とし、最長3年間の助成を行います。士会HPに、申請内容や募集時期を詳しく掲載しています。HPでもご不明な点がございましたら、当分科会や事務局の大阪地域貢献活動助成担当にお問い合わせください。



《まちづくり団体の報告・交流会》

助成している複数団体に参加を依頼し、それぞれの活動についての説明のあと意見交換を行って頂きました。一般公開のなかで、豊富な活動事例の紹介と地域連携の重要さについて話し合われました。

団体による説明場面

●これからの活動など

四半世紀を越えるまちづくり活動を振り返り、今後の活動を考えるため、＜**まちづくり分科会活動の歩み**＞という記録集（原稿状態）を最近作成しました。

また、景観まちづくりの地図ツールとして、＜**夕陽丘まちあるきみどころマップ**＞を以前に作成しましたが、使い勝手がよいため、記録集とともに増刷し、いずれお配りできるようにしたいと思います。（上記写真で掲げているものとなります。）

本分科会は、各委員が自主的に行いたい企画を持ち寄り、話し合い、できるところを見つけ、企画事業化してきました。我々の活動に少しでもご関心のある方は、気軽に見学などにきていただくと幸いです。

記憶の建築

透明感と奥性と孤独を愉しむ空間と

スパイラル（SPIRAL） 一九八六年

文・写真＝松隈 洋［神奈川大学建築学部教授］

二〇二四年十一月九日、東京南青山の青山通りに建つ展示場と催事場、店舗や飲食店からなる複合商業ビルのスパイラル（SPIRAL）に赴く機会があった。三階のスパイラル・ホールで、二〇二五年の没後六十年を記念する「ル・コルビュジエ リレートーク」と題するシンポジウムが催され、実行委員長の伊東豊雄を中心に、鈴木明、鈴木理策、百田有希、白石哲雄各氏と持ち時間十五分のトークに加わったからだ。内容は、彼の建築の魅力や独自の寸法体系モデュロールの考察など多岐にわたった。そんな中、筆者は、最初にこの建物の設計者である槇文彦に触れて、半年前の六月六日の逝去により、ル・コルビュジエに接した日本人建築家は一人もいなくなったと話し、追悼の思いを伝えずにはいられなかった。同時に、この場に槇のいないことの寂しさを一人噛み締めていた。もし槇がこのリレートークに参加していたら、何を語ったのだろう。

青山通りから見た正面全景

エスプラナードの変わらない情景

振り返れば、槇は、二〇〇七年、ル・コルビュジエ生誕一二〇周年の節目に開催された建築展の図録に寄稿した論考の中で、「ル・コルビュジエほど二十世紀において現代が無意識のうちに待望していた新しい空間のレトリックを創り出し、建築に新しい豊かな地平の存在を啓示してくれた建築家はいなかった」し、「誰よりも豊かに多義的に魅力的な空間の存在とそれを創り出す秘密を我々に解き明かしてくれました」と記した。そして、彼の啓示した「新しい空間の形式」とは、「〈積層する透明なヴォリューム〉の獲得」と総括できる、と書き留めていた（森美術館他編『ル・コルビュジエ 建築とアート、その創造の軌跡』二〇〇七年）。

ここで提示された「積層する透明なヴォリューム」こそ、槇がスパイラルに実現させた「新しい空間の形式」そのものであり、特質だと思える。槇は、二〇二〇年に上梓した最後の著書『アーバニズムのいま』（鹿島出版会）の中で、スパイラルについて次のように記していた。

「《スパイラル》は、完成してからすでに三〇年を超えている。（…）テナントの移り変わりもこの三〇年間激しかった。その中で唯一その情景が変らないところがある。それは一階から三階に向かうゆるやかな我々が〝エスプラナード〟と称する青山通りに面する部分と、その通りに面して置かれた黒い数個の椅子に坐っている人々がつくりだす情景である。彼らのほとんどの者は眼下の青山通りを漠然と見たり、本を読んだりしている。孤独のひと時を愉しんでいるのだろうか。」

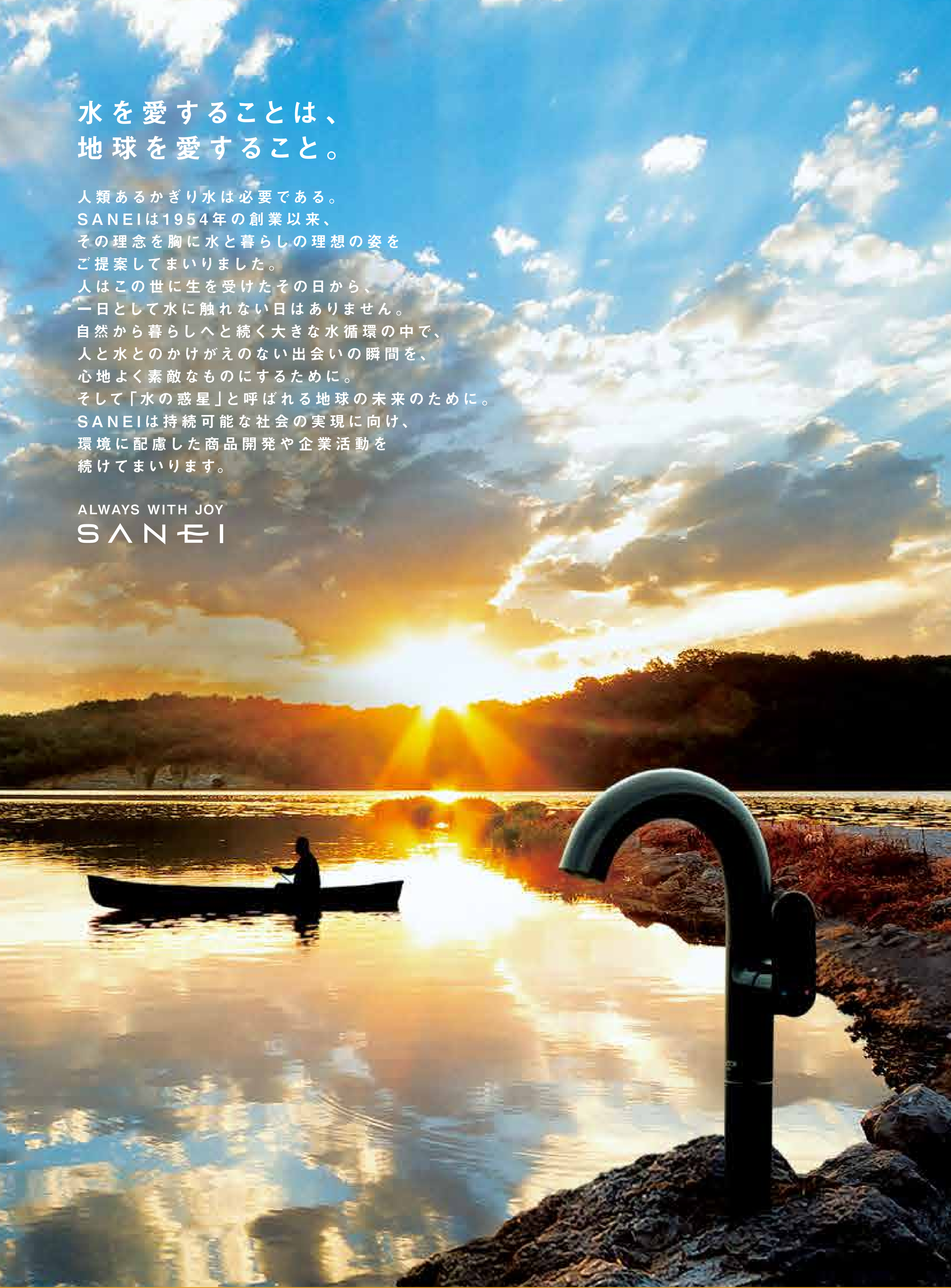
今回のリレートークの際に目撃したのも、槇がこう記した変らない情景だった。同じ文章で、槇は、続いて、「孤独は私の故郷である」というニーチェの言葉を引用しながら、「パブリックな空間」において、「ある種の威厳をもって孤独を愉しむ姿」を「たまに見かける」が、それは「わたしの都市」の「ひと時を愉しむ姿」でもある、として、自らの追い求める都市空間の姿を提示していた。そんな槇の思い描いた情景を知る時、唐突ながら、そこに、ル・コルビュジエが遠く戦時下の一九四三年に学生たちに語りかけた、次の言葉を置いてみたくなる。

「人が生活する環境について、今までなんの関心も払われなかった。日々の存在、そして街角、広場、自室で費やされる時やそれぞれの瞬間、それは来る日も来る日も、生まれてから死ぬまで繰り返される。このような場所のすべてが感動を秘め、我々が人生に、目覚めたその瞬間から、意識を育んでいくまさに背景となる。」（岸田省吾監訳・櫻木直美訳『建築家の講義―ル・コルビュジエ』丸善二〇〇六年）

実際に、スパイラルの各所に見て取ることができるのも、ル・コルビュジエが語ったような、人々の意識を「来る日も来る日も」育んでいく「感動を秘め」た「背景」となる都市の日常的な情景を造り上げようとする槇の眼差しと意志だったのではないだろうか。そこには、彼の思想と設計方法を共有し、新たな文化拠点として、都市の余白となるようなパブリックスペースを創造しようとする建て主ワコールの懐の深い姿勢を読み取ることができるだろう。こうして、間口三〇mに対して六〇mの奥行を持つ敷地の特性を巧みに活かしながら、エントランスホールからギャラリーを抜け、天空から自然光の降り注ぐ吹抜けのアトリウムへとひと続きにつながる、「奥性」のあるゆったりとした内部空間の広がりと、スキップフロア状に三階へと上っていくエスプラナードなど、都心の一等地とは思えない、伸び伸びとしたたたずまいが誕生する。それは、そのような共通の意志によって、はじめて生み出されたものに違いない。

竣工から三八年、地下鉄の明治神宮駅で降りて、欅並木の続く表参道を青山通りまで歩き、久方ぶりに現地を訪れてみると、ビルの建設ラッシュがあちこちで続いていた。何よりも残念だったのは、青山通りとの交差点の南西角にあった小さな商店が跡形もなく姿を消しており、また一つ、かろうじて残されていた南青山の町らしい風情が失われてしまったことだ。スパイラル自体も、一九八六年の竣工時には、幾何学的な形態が渦巻くようにリズミカルに立ち上る正面外観の独特な立体造形が、清新な透明感を湛えて自立していたと記憶する。だが、近接する南隣の無粋なビルに圧迫されて、どこか窮屈さに耐えているように見える。それは、竣工時に共有されていたであろう、都市空間への願いが断ち切られたことを意味するのではなかろうか。

先ごろ売却が検討されていると報じられたが、その眼差しに思いを馳せて、最晩年の槇が座右の銘にしたというDECENCY、慎み深さを備えた都市の在り方を今一度語り合うことが求められているのだと思う。



SANEI株式会社 www.sanei.ltd

木毛セメント板とラワン材のみで仕上げられた2階のLDK。

1階はカーテンと置き家具で3つの諸室に仕切られている。